

京都産業大学 1 / チームRAIN【リネットジャパングループ株式会社】へ	
審査員氏名	コメント
太田 亮子 氏 (日新電機株式会社 人事部企画室)	活動お疲れさまでした！「小型家電リサイクル」について調べるきっかけになりました。こんなポータルサイトもありました。http://kogatakaden.env.go.jp/ お題が小型家電ですが、どんな問題があるのか、またPC回収に着目したのはなぜか、という基本の部分がなかったため、ストーリー展開の納得性にやや欠けたのがもったいないと思いました。子供に環境教育を、というメッセージはもっともだと思いますので、教育の部分は納得できました。ただ、分解して何を理解してほしいのか、ということが欲しかったと思います。
中須 俊治 氏 (株式会社 AFURIKA DOGS 代表取締役社長)	ゴールから逆算して現在のアクションを導き出そうとした点、現状把握のためのリサーチは評価できます。しかしながら、プレゼンテーションで文語が多数、入っていることによって、内容よりも言葉づかいに意識が向いてしまう時間がありました。また、説明しない資料（簡単に流すだけのスライド）が入っていたので、そうした資料は省いてしまったほうが、チームとして伝えたいことがクリアになったのではないかと思います。
大谷 学 氏 (京都府 企画調整理事)	ローカルな課題をSDGs というグローバルな視点で考えています。また、議論の途中で「どういう世の中を作りたいのか」とゴールのイメージを共有することも、グループの協働作業として有効だったと思います。この経験を、個別の成功体験とすることなく、取組みを振り返り、必要な行動を抽象化することで、違った場面でもその能力を発揮することができる力にして下さい。
橋本 勇人 氏 (グローバルセンター学生プロジェクト卒業生/京都信用金庫人事部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ教育に焦点を当てたのか</li> <li>・リネットジャパンさんのメリットは何か</li> <li>・学生団体の継続性はどう考えているのか</li> <li>・群馬県高崎市のデータを使っていた⇒ほかにデータはなかったのか</li> <li>・個人的に特別な理由がないのなら帽子は取った方がいい</li> <li>・図で流れを分かりやすくしていたらGood</li> <li>・提案内容を1つに絞ってもっと深めてもよかった</li> </ul>
近藤 令子 氏 (Voice4u株式会社 取締役)	中間報告で浮き上がった問題点から原点に立ちかえり「どういう世の中を作りたいのか」というゴールを明確化した、という経緯まで伝えることで、プロジェクトのプロセスがしっかりと伝わってきました。バックキャスト思考で目指すべきゴールを考え、学生団体による回収とリース、環境教育という2点に絞り、その効果的な実践方法をしっかり考えているところが素晴らしいです。リースのビジネスモデルを分かりやすい図に落とし込み、中長期的な収益プランや実際に環境に与える効果などが可視化されるとなお説得力のあるプレゼンになると思います。

産業大学2 / リネットジャパンプロジェクト【リネットジャパングループ株式会社】

審査員氏名	コメント
<p>太田 亮子 氏（日新電機株式会社 人事部企画室）</p>	<p>活動お疲れさまでした！「何をリサイクルするか」ではなく「文化を作る」から発想されたのが面白いと思いました。子供のうちにリサイクル活動にあたりまえに参加する流れを作るのは確かに重要です。そこから小型家電の盲点ともいえる「ケーブル」に行きついたのは面白いと思いました。事業としては家電本体と異なり収益が少ないのでリネットさんでは難しいかもしれませんが、ベルマーク、エコキャップと続いてきたリサイクル文化の灯を消さないという売り文句で文科省と環境省に持っていたほうが良いかもしれませんね。惜しむらくは説明とスライドのバランス。もう少しスライドで大切なキーワードは表現したほうが良いと思います。ちょっと観念的に感じました。最初は「文化を作る」に重点を置いたことがわかりにくく思いました。</p>
<p>中須 俊治 氏（株式会社 AFURIKA DOGS 代表取締役社長）</p>	<p>全体の流れ、「ケーブル」に目を付けた点は、とても良かったと思います。まわりのリアルな意見が取り込まれていたりして、信ぴょう性がありました。もうすこし、プレゼンテーションを聞いている側への配慮をするだけで、発表のクオリティは格段にあがるような予感がしました。</p>
<p>大谷 学 氏（京都府 企画調整理事）</p>	<p>リネットジャパンさんから出されたテーマを、自分たちの問題として落とし込むのに苦労したようですが、とても大切なプロセスであったと思います。この経験を、個別の成功体験とすることなく、取組みを振り返り、必要な行動を抽象化することで、違った場面でもその能力を発揮することができる力にして下さい。</p>
<p>橋本 勇人 氏（グローバルセンター学生プロジェクト卒業生/京都信用金庫人事部）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収益性を考えていいと思った</li> <li>・助成金申請を考えているのいいと思った</li> <li>・ソーシャルビジネスとして成り立ちそうだと感じた</li> <li>・具体的支援先を提案しているのいいと感じた</li> </ul>
<p>近藤 令子 氏（Voice4u株式会社 取締役）</p>	<p>エコキャップ運動やベルマーク運動の後継としてのケーブル集めという、極めて実現可能性の高い、リネットジャパングループのビジネスモデルにも寄り添った提案の内容が優れています。ケーブルの価格や回収による経済性や再利用などの調査もしっかりなされており、市民への教育から普及へつなげるという先例のエコキャップ運動の成功例と課題点を分析した上での提案力が素晴らしいと感じました。ケーブルを中心とした「三方よし」ともいえる循環の図を見せてもらえると思うました。収益性と公益性の双方のバランスを考えた解決力は素晴らしい。リクエストとしては、プレゼンは「誰が取り組んだのか？」という主語の部分が明確になること、閲覧者も強い関心を持って聴きますが、その点が若干薄かったので、ぜひ今後は優れた内容を表現力でさらにアピール度UPにつなげてもらいたいです！</p>

産業大学3 / グローカル人材PBL 起業班【リネットジャパングループ株式会社

審査員氏名	コメント
太田 亮子氏 (日新電機株式会社 人事部企画室)	<p>活動お疲れさまでした！あえて起業プランという高い目標に挑んだことは素晴らしいと思います。厳しくなりますが感じたことを書かせていただきます。</p> <p>まず、事業としては収入だけでなく支出も想定する必要があります。巨大なゴミ箱が置けることはないで、こまめに回収が必要なため人件費・輸送代はかさみます。集積・分別の場所も必要でしょう。</p> <p>収入については、スタバや自治体ですでに分別回収をしていますし、テロ事件で普段設置者の目の届かないゴミ箱は撤去されている状況で、新たにゴミ箱を置いてくれるでしょうか。</p> <p>付加価値であるゴミ箱の機能ですが、ポイ捨てしがちなたばこの吸い殻を投票型ゴミ箱というワンアイデアでゴミ箱に入れさせるのは良いのですが、「リサイクルできるごみを効率的に集めよう」という目的に流用するのはちょっと難しいのではと思います。ネットでアンケートもとれる（しかも即時）ため、お金を出す側の「投票」の価値も高まりにくいでしょう。</p> <p>ではどうするか、自分の案を書いてみます。Wordの資料にあった最初のアイデアからの発想です。京都府には手軽に大型ごみを持ち込んで捨てられるクリーンセンターがあります。そのような自治体の施設にもっとリサイクルできるゴミを持ち込んでもらうために、リサイクルポイントサービスの会社を作るのはいかがでしょうか。ポイントサービスも過当競争ではありますが、多くの自治体と組んでふるさと納税の返礼品がもらえるような全国ポイント制が敷けると利用される確率は上がるかと。（自治体が独自でやるとたいいてい魅力に欠ける賞品になってはならないため）設備投資はIT周りでほぼすむのでリスクは比較的低いと思われます。</p>
中須 俊治氏 (株式会社 AFURIKA DOGS 代表取締役社長)	<p>ゴミを分別するのを目的とするのではなく、「結果としてゴミが分別されていた」という設計にした点が良かったと思いました。その思考プロセスは、ほかの業界でも展開できそうな汎用性を感じました。もうすこし、ゆっくり話すだけでプレゼンテーションの質は劇的に変わるのではないかと思います。</p>
大谷 学氏 (京都府 企画調整理事)	<p>SDGsの中でゴミに注目された点が素晴らしいと思います。非常に地道な分野ですが、産業分野においても、「静脈」産業（廃棄物）の育成が課題です。この経験を、個別の成功体験とすることなく、取組みを振り返り、必要な行動を抽象化することで、違った場面でもその能力を発揮することができる力にして下さい。</p>
橋本 勇人氏 (グローバルセンター学生プロジェクト卒業生/京都信用金庫人事部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsに着目したのか理由があれば良かった</li> <li>・グラフや数字で根拠を示しているのいいと感じた</li> <li>・段階的に場所を考慮しているのいいと感じた</li> <li>・観光地だけでなく、もっと具体的にならもっと良かった</li> <li>・実行プランを考えていて具体的にいいと感じた</li> <li>・収益性の数字があればもっと良かった</li> </ul>
近藤 令子氏 (Voice4u株式会社 取締役)	<p>リサイクルやゴミの削減という一見、地味で重いテーマに対して若者の感性と学生らしい調査分析力で向き合い、「無意識にゴミ分別ができる社会へ」→「投票できるゴミ箱」という世界で話題になった事例から想起し、さらに面白く、ビジネス化に向けた具体的な試作を考えた発展力を評価したいです。ゴミをワクワクする要素に変え、リサイクル事業にし、社会課題解決に持っていくアイデアに可能性を感じました。ゴミ箱をメディアにする、というのは有効ですね。リサイクル事業者との連携も十分に可能性があるのでは。リクエストとしては、具体的なゴミ箱のビジュアル化や、自分たちが考える投票案、ビジネスモデル図など「見せるプレゼン」に仕上げてくれると、もっと魅力的になったと思います。</p>

京都府立大学1 /DIYプロジェクト【株式会社DIY STYLE】へ

審査員氏名	コメント
太田 亮子 氏（日新電機株式会社 人事部企画室）	<p>活動お疲れさまでした！短期間でしっかりと活動されたと思います。テーマがはっきりしていたのでやりやすかったこともあるかと思いますが、それぞれ得意なことを活かして布のチョイスや帯のデザインもきれいにまとめられていて、見て楽しみました。</p> <p>外国語のネーミングは気をつけましょうね。マスクケースはお母さんが子供に持たせるのに重宝すると思いますが、原案ではおそらくちょっと買いにくいお母さんネットワークでお勧めしにくいのもったいないです。</p> <p>あと、最終的な商品の姿が動画で見えましたが、ハンカチ上のを折って終わりですね？子供がはっこを持つとマスクが地面に落ちてしまうので、巾着タイプなどにする工夫が必要だと思いました。加工する試作の時間まではなかったと思いますが、今後の改良の提案があるとさらに良かったと思います。</p>
中須 俊治 氏（株式会社AFURIKA DOGS 代表取締役社長）	<p>全体の流れ、プロセス、結果からのアクション、とてもすばらしいプロジェクトに感じました。市場に出て、すでにあるマーケットから分析しようとした点、材料の特性を把握して商品開発、さらに動画撮影し、検索ワードの検討など、たった5日間で大学生がここまで出来るのかと驚愕しました。「蜜蠟」をはじめて知りましたが、とても魅力的で、おもわず京都の職人に問い合わせをしてしまいました。（かつて、蜜蠟は染色業界でも使われていたそうです。）強いて改善点を挙げるとすれば、（5日間では厳しいというのは承知のうえで）販売してみたり、使用感のヒアリングまで持っていくと、また違った質の学びがあったらと思うと思います。考えるだけでは突破できない壁が、実際には起こりがちなので。</p>
大谷 学 氏（京都府 企画調整理事）	<p>企業様からのニーズを真正面から取り組んだ内容の濃い5日間でした。ゼロ日目から、自ら市場調査するなど、ネット情報だけでなく、自らの目で確認する作業は重要だと思います。エコラップが、「エコ」だけが目的なのかについて、深堀があるともっと良かったと感じています。</p>
橋本 勇人 氏（グローバルセンター学生プロジェクト卒業生/京都信用金庫人事部）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DIY STYLEさんの事業をしっかりと説明していいと感じた</li> <li>・課題に至るまでのプロセスが明確でいいと感じた</li> <li>・プレゼンの見栄えが非常にいいと感じた</li> <li>・自分達がの感じたことを伝えていてとてもいいと感じた</li> <li>・市場調査をしっかりと行っていていいと感じた</li> <li>・実際に試作品を作っているのめっちゃくちゃいいと感じた</li> <li>・色気のある女を描いてもらってという言い方めっちゃ面白い</li> <li>・企画を5日間でしっかりと作りこまれて素晴らしいと感じた</li> </ul>
近藤 令子 氏（Voice4u株式会社 取締役）	<p>ビジュアルを駆使して見やすいプレゼンでした。5日間という短いプロジェクト期間をフルに使い、フィールドワークや実際の試作など自分たちが手を動かした様子が鮮やかに伝わってきました。また、手を動かしただけではなく、一つ一つの取り組み出てきた事柄から生まれたアイデアの背景や理由が明確で、分かりやすく伝えてくれています。商品開発やマーケティング調査は、どれだけ受け手の立場に立って考えられるか、現代社会の課題解決につながるのと共に、いますぐ手に取ってもらえる商品提案力も必要になりますが、それらのマーケティング要素も含めて網羅的に提案に落とし込んでいっているところが素晴らしいです。一点だけ、個人的にエコラップは大好きでオーストラリアからも取り寄せて使っていますが、マスクを挟んで持ち歩くにはベタつきとかはないんでしょうか？夏場の高温時は大丈夫かな？その辺りは本番のイベントで聞いてみたいです^^</p>

大学1 / 2021年度版京都・滋賀仕事Navi【京都中小企業家同友会、株式会社イワ

審査員氏名	コメント
太田 亮子 氏（日新電機株式会社 人事部企画室）	<p>活動お疲れさまでした！私は採用担当者の立場で拝見し、熱い思いで対話を多く取り入れた冊子への転換を実現された活動に共感しました。前例通りきれいにまとめる選択肢もあったはずですが、本当に学生のニーズに合っているのかな？というところから出発されたのが良いと思いました。</p> <p>学生の方が就活に前向きになれないのは、情報の不足が大きな要因だと私も思っており、企業側から、自社の情報がうまく伝わっていない現状を変えようと活動してきました。</p> <p>新しいことをやるには発想力だけでなく行動力や相手の立場や話を理解する力も必要ですが、一歩踏み出すといろいろなことが変わる、という成功体験が何よりの成果だと思います。</p> <p>関係者の方の声がプレゼンテーションに入っていたのも、人とかかわりを重視した活動の発表らしく、良いと思いました。最初の記者会見のところはなくてもよいか...十分人を惹きつける内容ですし、その時間分もう少し誌面を見たかったという欲張りな感想を持ちました。冊子見てみます！貴重な取り組みをありがとうございます！</p>
中須 俊治 氏（株式会社 AFURIKA DOGS 代表取締役社長）	<p>プレゼンテーションの15分間が、あっという間に感じただけでなく、「しごとNavi」がめっちゃくちゃ魅力的に見えました。また、新しく取り組んだことを自分だけのものにせず、実際に読んでもらった感想などを確かめている点も秀逸でした。「リクナビ」や「マイナビ」で就職活動をするのがスタンダードになった昨今、今回のプロジェクトはその時代の流れに一石を投じる可能性すらあるように思えました。さらに、このプロジェクトをとおした自分自身の気持ちの変遷を自省して学びに変えていたシーンには尊敬の念を覚えました。強いて、改善点を挙げるとすれば、彼女たちの「テンションのあがり方と明るさ」が、人によっては不真面目にうつることがあるので、その節度をわきまえれば、未恐ろしい大物になる予感がしました。</p>
大谷 学 氏（京都府 企画調整理事）	<p>プレゼンを聞いて、こちら元気にになりました。対話の重要性と熱量が人を動かすことを改めて認識した内容でした。定量データに基づく議論があるともっと説得力が出たと思います。「大人の階段を上って」次のステージに行くと、これまでとは違う景色が見えてきます、今後の活躍を期待しています。</p>
橋本 勇人 氏（グローバルセンター学生プロジェクト卒業生/京都信託金庫人事部）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個性あふれるプレゼンでいいと感じた</li> <li>・取り組む目的や課題設定等が弱いと感じた</li> <li>・素直に感じたことを表現していると感じた</li> <li>・実際に現場でインタビューをしているのがいいと感じた</li> <li>・動画を工夫しているのを感じた</li> <li>・関係先の評価が入っているのはいいと感じた</li> <li>・自分が仕事を選んでいくという学びを得れたのが非常にいいと感じた</li> </ul>
近藤 令子 氏（Voice4u株式会社 取締役）	<p>緊急会見LIVEという形にした構成と軽妙なトーク、Youtuberも真っ青という感じで驚き新鮮でした。視聴者を魅了するプレゼンのお手本を見せてもらったように思います。毎年続いている冊子の制作という、やりやすいようでも変革をどのように求められるのか創意工夫が難しいテーマのもと、自分たちらしさを追求し「革命」というワードを用いながらも、編集作業の基本をしっかり押さえ、幅広い対象へのインタビューなど創意工夫を重ねているところも評価できました。自分たちの働き方、就職活動への意識の変化も伝えている、学生の目線に立った本音の活動に好感度をおおいに持ちました。あとは、多様な立場にある学生への配慮やグローバルな視点、さらに既存概念をくつがえす様な冊子の枠を超えたアイデア提案などもあれば素晴らしいと思います。</p>

佛教大学1／豊栄まちづくり委員会【京丹後市豊栄まちづくり委員会】へ

審査員氏名	コメント
<p>太田 亮子 氏（日新電機株式会社 人事部企画室）</p>	<p>活動お疲れさまでした！コロナで思うように現地に行けない中、工夫して活動されたのが伝わってきました。「現地の人の考える魅力と若者の感じる魅力が違っている」という最初の指摘はその通りだと思います。目的別の情報整理や観光プランの設定も良いアイデアだと思います。ただそれらが報告にとどまり、「こんな感じで伝えます」というのがなかったので物足りなく思いました。このプレゼンテーションも魅力を伝える機会の一つと考えると、スライドの作り方はもっと変わると思います。</p> <p>ちりめんや柿の活用方法などはもっと斬新なアイデアを期待しました。今後に期待します。柿ジャムはあまり世にないので向かないのかな？柿渋で環境にやさしい防虫とか、健康に良い杜仲茶のおいしい飲み方提案など。</p> <p>花もよいですね。お世話のうまい方々がいらっしゃるならどんどん拡大していただきたいです。</p>
<p>中須 俊治 氏（株式会社 AFURIKA DOGS 代表取締役社長）</p>	<p>魅力を発信する地図の作成にあたり、地区ではなく楽しみ方（コンテンツ）で分けた点、その場だけでなく、継続してコミットできる提案をしたのも秀逸でした。商品開発では、企画段階ではあるものの、持続可能性を意識して、しっかりお金の計算をしながら利益を出していける構造に近づけようとする努力も見えました。改善点としては、設計は出来ていたもので、あとは小さくても実際に販売してみるところまで進めることができれば、よりよいプロジェクトになったと思います。その事実の積み重ねは、だれからも否定されないし、揺るがない価値にもなります。</p>
<p>大谷 学 氏（京都府 企画調整理事）</p>	<p>地域の振興には、「よそ者、若者」の意見は重要とされています。地域の方々との交流などを通じ、よそ者、若者の視点でよくまとめました。遠方のまち、9人のメンバーとの協働作業など、その検討過程そのものが重要な財産になると思います。</p>
<p>橋本 勇人 氏（グローバルセンター学生プロジェクト卒業生/京都信用金庫人事部）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に言葉の定義をしているのがいいと感じた</li> <li>・全体像を最初に話しているのがいいと感じた</li> <li>・企画の解像度をどんどんあげていっているのもいいと感じた</li> <li>・『収益性難しい⇒コミュニティの活性化を目的に変更した』⇒どうやったら収益性を高められるのかをもっと考えられるといいと感じた</li> <li>・1,200円の設定した理由があればもっと良かった</li> <li>・地域の商品を利用している点については、地域との共生や地域資源の活用という視点で考えていていいと感じた</li> </ul>
<p>近藤 令子 氏（Voice4u株式会社 取締役）</p>	<p>人口減少や高齢化、地域の担い手の減少、魅力発信不足などの課題について若者の視点で自由にアイデアを生み出し、各アイデアの魅力をうまく絡めながら、実行実現性のある方法を多数提案しているところが素晴らしい。丹後ちりめんのルーベ式のアクセサリなどは今すぐに販売できるポテンシャルがありますね。柿チョコチップスの考案は見事で、しっかりと商品開発しマーケティングを重ねてインターネットを活用すれば収益性も街の活性化にもつながると感嘆しました。盛りだくさんの要素それぞれに「これぞ若者による柔軟なアイデアの集合体」だと感じました。地域の人々の意見を汲み上げ商品化する取り組みをぜひ今後も続けてほしいです。プレゼン資料は全体の統一感と洗練性があればもっと良くなりますね。</p>

佛教大学2 / 京都ジョブパーククラス【京都ジョブパーク】へ	
審査員氏名	コメント
太田 亮子 氏（日新電機株式会社 人事部企画室）	<p>活動お疲れさまでした！ジョブパークさんはお世話になっていますし、ユニークな活動もされていますが、学生に知られていないのは予想以上でした。学生と企業のマッチングを頑張っていってほしいので、学生に知ってもらおう策としてまず、キャリアセンターからPRしてもらおうなども必要ではないかと考えていました。</p> <p>就活支援はグローバルさんもされていて、女性活躍支援ならば厚労省が大きな企業データベースを公開されていますので、重なるところはリンクを張るなどで十分だと考えます。</p> <p>（実は企業側はあちこち情報登録することになり負担を感じることもあります。このあたり企業の声を聴かれるとさらにアイデアが広がったと思います）</p> <p>スライドは丁寧に作られていましたが、ジョブパークさんの課題認識とこれまでの活動があって、PBLチームが今回アンケートやデータから「もっとこんなことが必要」と提案する構成になっているのもっとわかりやすくなったと思います。</p> <p>また、スライド、Word資料を見ても女性にフォーカスされた理由がよくわかりませんでした。ジョブパークさんが女性の就職支援に注力されているのは存じておりますが、PBLチームの理由を知りたいと思いました。</p>
中須 俊治 氏（株式会社 AFURIKA DOGS 代表取締役社長）	<p>発表の全体の流れが冒頭で示されていて、とてもわかりやすかったです。また、学生ならではの手法（インスタグラムなどを駆使）でプロジェクトにアプローチしてただけでなく、前提として、どういう位置づけのなかでプロジェクトを遂行していたのかを段階を踏んで整理していた点もよかったです。改善点としては、ロジカルな一方で、「楽しさ」のエッセンスがすこし足りないように感じました。正しさより楽しさに人は動きがちなので、そのあたりにも着目すれば、圧倒的なプレゼンテーションになったのではないかと思います。</p>
大谷 学 氏（京都府 企画調整理事）	<p>ジョブパークは今年14年目を迎えます。スタート当時、行政の縦割りを排したワンストップでの支援は、全国的にも初めての取組でした。今回、学生の視点で、その改善策を提言いただけることは、とても重要です。可能であれば、提言だけでなく、対話にまでつなげていただけるとありがたいです。</p>
橋本 勇人 氏（グローバルセンター学生プロジェクト卒業生/京都信用金庫人事部）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンの流れを最初に話しているのがいいと感じた</li> <li>・学生と女性に焦点を当てて調査をしたのかの説明があるといいと感じた</li> <li>・具体的な京都の学校名まで掘り下げて解像度を上げると非常にいいと感じた</li> <li>・提案内容をもっと深めるか絞るかするといいと感じた</li> <li>・あるべき姿を話しているのがすごくいいと感じた</li> </ul>
近藤 令子 氏（Voice4u株式会社 取締役）	<p>現状調査と課題解決に向けた分析能力の高さが最も評価すべき点です。本質的な問題に切り込んで、Instaを使った調査など、現代のセンスと手法で解決策を考えており、今すぐにも実施案を実行できるわかりやすさと、公的機関のカラーやスタイルに寄り添った提案内容でした。人口流出についての分析も、まさに納得いく「出身高校が京都で地元就職を希望する割合が63%でここに焦点を当てるべき」という分析も説得力と納得感に満ちていました。このまま官公庁向けのコンサルティングがおこなえるのではと感服。リクエストとしては、ワクワクする表現、ネーミング、楽しいビジュアルなど、受け手の気持ちを盛り上げる見せ方に工夫が求められると思いました。</p>

学3 / チーム『ぶつ☆ラジ』【NPO法人コミュニティラジオ京都(Radio Mix Kyc	
審査員氏名	コメント
太田 亮子 氏 (日新電機株式会社 人事部企画室)	<p>活動お疲れさまでした！コロナでせっかくの放送ができないのが残念ですね。テーマが明確でアイデアはたくさん出たと思いますが、その過程（特に各MCの個性を出して自分たちならではの味を出すことにフォーカスした中間報告以降）の話をもっと聞きたかったと思います。</p> <p>聞く人が増えたか？についてはもう少ししっかりまとめた方が良いと思います。ツイッターやインスタの反応を口頭で紹介するだけではもったいないです。広報手段の詳しい説明を減らしてビフォーアフターの数字をグラフで見せるだけでもかなりインパクトがあります。</p> <p>活動報告としては特に引っ掛かりはないのですが、ストーリーとしての迫力を持たせるには、リスナーを増やす目的は何か？だからどんなコンテンツを強化してどう効果が出たか、ということをごこう考えて活動しました、というポイントをしっかり打ち出したほうが、よりこのプレゼンを聞く人にわかりやすいと思います。</p> <p>ラジオの面白さを時間のない人にも伝えるとしたら、半期ベストのコンテンツなどをWebで文字で再現して載せておくのも一つの手かと思います。あとは大学生に向けては「スタッフ裏話」も面白いのでは。メディアに興味のある人や働くことに不安のある人に向けて、大人が仕事をしているところを紹介するというのは共感も得られやすいのではと思います。がんばってください。</p>
中須 俊治 氏 (株式会社 AFURIKA DOGS 代表取締役社長)	<p>4つの象限にわけてコンテンツを整理した点を含めて、学生ならではの視点が随所に見られて、とてもよかったです。また、終始、当事者目線を忘れなかったところも好印象でした。プロジェクトを進めていると、地域の人たちや受け手不在の議論になることがあったりします。そのような中で、常に自分ごととして課題を捉えていたのは目を見張りました。そしてなにより、実際にコンテンツをつくり込んで放送するという実践を積み重ねていることが秀逸でした。</p>
大谷 学 氏 (京都府 企画調整理事)	<p>さすがに、ラジオ放送だけあって、耳に優しい聞き心地がよいプレゼンでした。自らの強みの分析の上に、対策を組んでいることも重要です。更に、定量的なデータが入るともっと説得力が増すと思います。</p>
橋本 勇人 氏 (グローバルセンター学生プロジェクト卒業生/京都信用金庫人事部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初にプレゼンの流れを伝えているのがいいと感じた</li> <li>・宣伝方法を今よりも増やす理由があれば良かった</li> <li>・図やグラフを使えるのもっと分かりやすくなると感じた</li> <li>・実際の放送の様子を流しているのは分かりやすくていいと感じた</li> <li>・オンライン対応のやり方を引きついでいるのは継続性という観点でいいと感じた</li> </ul>
近藤 令子 氏 (Voice4u株式会社 取締役)	<p>地域ラジオ局とタイアップし、地元の北区や大学を商圈ととらえて価値ある発信をするために様々な角度から取り組んだ様子がリアルに伝わってくるプレゼンでした。後半のラジオ局の仕事内容が分かる部分もこちらの興味を引いて良かったですし、リアルな番組も聴かせてもらえて良かったです。コロナの影響で放送ができなかったことを前向きに捉えてしっかり企画、準備したことが素晴らしい。この15分のプレゼンそのものも番組ととらえて、番組形式で動画にしても良かったように思いました。せっかくの視聴覚コンテンツなので。</p>

龍谷大学1 / チームMISO【株式会社西京味噌】へ	
審査員氏名	コメント
太田 亮子 氏（日新電機株式会社 人事部企画室）	<p>活動お疲れさまでした！白みそバターを試したくなりました！</p> <p>みその地方性や効用の確認があり興味をもったところで、現在の輸出先から未開拓市場にターゲットを絞る説明がわかりやすく、フランス攻略と一緒に考えたいというストーリーでした。</p> <p>白みそ活用アイデアはもうひとひねりほしいところです。フランス人はパンだけ食べないですよね？パンのお供との相性も確認してあればさらに納得性があると思います。チーズやワイン、あるいは普段のおかずなどの相性など。甘みを活かしたチョコやクレープシュゼットのソースとしても使えるかもしれません。</p> <p>また、販路の話も過去の日本食の成功事例（豆腐？）などがありそこからアイデアを借りたなどの話があると勝算が感じやすくなったと思います。日本酒メーカーもヨーロッパ進出は悲願だと思いますので、組めるとさらに良さそうです。</p> <p>そのあたりが惜しかったと感じました。日本でもぜひ白みそバターを広めてほしいですね！</p>
中須 俊治 氏（株式会社AFURIKA DOGS 代表取締役社長）	<p>味噌が調味料のなかで唯一、地域性を残していることを初めて知りました。そんなインパクトをプレゼンテーションの冒頭にもってきて、完全に内容に惹きつけられてしまいました。そして海外展開に際して、ヨーロッパ地域に目をつけ、さらにフランスという一國に絞って分析したところもよかったです。数字や事実を踏まえて根拠を明確にしながら議論を進めていたので、理解のギャップが少なく、スムーズに聞くことができました。コロナがなければ、実際にフランスに「パン×白味噌」をもって行ってほしかったと悔しくなるほど、よく調べられているし、企画としても面白いと思えました。</p>
大谷 学 氏（京都府 企画調整理事）	<p>「さしすせそ」で、惹きつけられました。ビジュアルも美しく、素敵なプレゼンでした。</p> <p>更に、「味噌は地域性が残る」と言われた点が、もう少し深掘されると、もっと惹きつけられたと思います。</p>
橋本 勇人 氏（グローバルセンター学生プロジェクト卒業生/京都信用金庫人事部）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真をいっぱい使っていて見やすいと感じた</li> <li>・エビデンスをもって話しているのがいいと感じた</li> <li>・日本だけではなく世界に市場を広げているのがグローバルらしくていいと感じた</li> <li>・パンの中でも何のパンが今後競合にあたるのかや利用シーン等の解像度を上げるともっといいと感じた</li> </ul>
近藤 令子 氏（Voice4u株式会社 取締役）	<p>マーケティングリサーチの基本を押さえ、新しい商品を未開拓の海外地域に根付かせるという大変なミッションに対する具体的かつ納得感のある提案に落とし込んでいくところが素晴らしい。西京味噌さまの海外担当者にとっても非常に有益な調査資料となるでしょう。例えば、抹茶がパリで普及したきっかけなども調べれば、優れた料理人に対して味噌を提案する、といった施策も考えられそうですね。それにしても西京白味噌とパン、早速食べたいという美味しそうなプレゼンでした！</p>

龍谷大学2 / 直七から世界へ【株式会社直七法衣店】へ	
審査員氏名	コメント
太田 亮子 氏 (日新電機株式会社 人事部企画室)	<p>活動お疲れさまでした！最初「学生の仏教を広めたい」とあったので、仏教のお弁当かと思いきや、「宗教の違いを食で知ってもらおう」というテーマになった後は、お弁当の工夫から最後に異なる文化の交流でイノベーションも、という整理の仕方までずっと理解できました。よく考えられていたと思います。</p> <p>欲を言えば、もう少し具体的なイメージを伝えられるよう、要所要所に文字だけでなくサンプルの画像などがあるとよかったですと思います。</p> <p>お弁当の底の印字は耐久面に少々心配があるので、蓋の裏でよいかも（食べながら話題にできる）。</p> <p>学食で提供するプランの先にある「宗教の違いに関心を持つ人を増やす」につながるアイデアも少し紹介されるとよいと思いました。ちょっとしたことでよいのでまだ先がつながる、という展望が聞き手をワクワクさせます。例えば学食のトレイに「もっと知りたい人向けの各宗教食情報」など。ユダヤ教のベーグルは発酵がNGなのでイーストなしのパン、とかヒンドゥー教は牛が聖なる動物なので食べてはいけなくて、高級な肉はチキンとか、イスラム教は豚は不浄なのでラードなどもだめ（そのため結構NGな食材は多いのです）など、私も記憶にある範囲ですがそういう話が常識になっていくとよいですね。</p>
中須 俊治 氏 (株式会社 AFURIKA DOGS 代表取締役社長)	<p>プレゼンテーションのスライドがとてもわかりやすく、またプレゼンターそれぞれのスキルの高さを垣間見ました。「宗教」という難しいコンテンツを取り上げながら、学生でもかかわれるものとして落とし込むのに「食」を切り口にしたのも面白かったです。一つ一つ、整理しながら前に進めてきたプロセスが十二分に伝わる内容でしたが、欲を言えば、プレゼンテーションの半分以上を聞き手の知識のインプット（調べ物の整理）だったので、実際のアクションからの景色をもっと見たかったです。とはいえ、全体のバランス感と安定感は秀逸でした。</p>
大谷 学 氏 (京都府 企画調整理事)	<p>大きな課題に正面から意欲的に取り組むことができました。全体のビジュアル、資料、検証などよく整理されています。僕自身が「すつんと落ちる」とまではいきませんが、この大きな課題を考える「きっかけ」と希望が持てました。</p>
橋本 勇人 氏 (グローバルセンター学生プロジェクト卒業生/京都信用金庫人事部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちゃんと企業さんの事業説明をしていていいと感じた</li> <li>・このテーマを選んだのか理由を説明できればもっとよかった</li> <li>・プレゼンにアニメーションをつけていて見やすいと感じた</li> <li>・食と宗教を掛け合わせた理由があればもっといいと感じた</li> <li>・グローバル弁当のコンセプトがあれば教えてほしいと思った</li> </ul>
近藤 令子 氏 (Voice4u株式会社 取締役)	<p>グローバルとローカルの要素についても考え、自分たちの取り組みが単なる企業利益の追求のためではなく社会課題解決やより良い未来へのコミットメントの手段として考えているところが素晴らしい。京都ならではの仏教関連の老舗に対する貴重な提案になったのではないかと。コロナの期間中にこそ考えたい未来への施策の提案だと思いました。個人的には献立に関する知識は食べる前に見たいです。</p>

龍谷大学3 / チームPiPPAs【株式会社オーシャンブルースマート】へ	
審査員氏名	コメント
太田 亮子 氏 (日新電機株式会社 人事部企画室)	<p>活動お疲れさまでした！シェアサイクルが京都で広まっているのは良いことですね！現在コロナで外国人旅行者が減っていて、市バスも乗りやすくなりましたが、今後またオーバーツーリズム問題は発生しますので、大切な検討だと思います。シェアサイクルとスマホの相性が良いので、観光プラットフォームに育てられる可能性があります。その点で観光プランの提案だけでなく、利用者からのおすすめルート投稿もあるとよいですね。信用ポイントプラス付加などでリワードも容易ですし、お店や観光スポットの情報がリンクしているのも嬉しい（ただし各国語対応が必要なので、留学生の方に協力してもらっては）</p> <p>各大学内にポートが増えるのも留学生の方の利便性が高まるので良いですね。惜しむらくは、プレゼンテーションで課題と提案までが長く感じられました。他の交通機関との比較表は不要かも。バスはなかったのでは違和感もありました。メンバーで実際に体験しました、もっとこうしたら、という話があるとよかったです。最後の「効果」というタイトルでは観光利用の比率は出ましたが、今の倍PiPPAが使われたらこのうち何パーセントが減るかも、というような数字まで仮定でよいのであるとタイトルに沿った話になったと思います。</p>
中須 俊治 氏 (株式会社 AFURIKA DOGS 代表取締役社長)	<p>はずかしながら、はじめて知る京都の課題を垣間見て勉強になりました。外国人観光客が利用する市バスでの問題、留学生の事情、それらを解決する手段としてのPiPPA、個人的に利用したいだけでなく、お店にポートを設置したいと思うくらい、いいサービスだと感じました。改善点を挙げるとすれば、すこし発表のスピードが早いように感じたのと、考えた観光ルートの実践（自身だけでなく第三者の意見・感想）を盛り込めば、もっとよいものになったのではないかと思います。</p>
大谷 学 氏 (京都府 企画調整理事)	<p>ビジュアルも美しく、身近な観光の設定など、とても分かりやすかったです。プレゼン時間の問題があったと思いますが、シェアリングエコノミー、Massなどにもう少し時間を割くと、必要性が伝わるのではないかと感じました。</p>
橋本 勇人 氏 (グローバルセンター学生プロジェクト卒業生/京都信用金庫人事部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ソーシャルな視線を入れているのが非常にいいと感じた</li> <li>・ ガラスにめっちゃ人が揺れているのが映っている</li> <li>・ 観光客が自転車を使うことへの懸念点を聞いてみたいと思った(観光公害的なものは起きないのか?)</li> <li>・ 具体的な自転車の使用ルートを考えているのがいいと感じた</li> </ul>
近藤 令子 氏 (Voice4u株式会社 取締役)	<p>ソーシャルスタートアップであるPiPPAの特徴や先進性と、京都が抱える大きな課題であるオーバーツーリズムと留学生の自転車問題に着目し、単なるシェアサイクルの普及に留まらない社会全体の課題解決に向けた「地元からスタートできる施策」を盛り込まれた優れた発表でした。飲食店への信用ポイントの拡大は非常に有益なアイデアだと思います。プレゼン資料も見やすくデザイン性も感じられました。</p>